

空と窓と

京都の路地は奥に深いです

na





---

清水さんへは阪急電車四条河原町駅から徒歩で向かいます。

もちろん京都駅その他からバスで近辺まで向かうのやら  
京阪電車の清水五条駅（わかりやすー）から向かう方法もありますが、  
僕の場合はいつも四条河原町スタートです。

ここは、四条大橋から南座を見たところです。



四条通のどんつきにある八坂さんです。

まだ早朝のため、人通りは少ないです。



ユニコーンな狛犬



こんな顔の日本人見たこと無いなあ。



土日関係なく、年中屋台が出ているんですが、  
まだ準備中 午前9:00ぐらいですから。



観光名所なんですが、ご近所の方がちゃんとお参りに来はるんですね。  
地域の人の生活と結びついているところが、神社のいいところやなあ。

お寺は必ずしもそうではないんですよ、入山料とか拝観料とか、  
自由に出入り出来なくしてるところが多くて。

お寺を名乗るのやめたらいいのに、とか、思ってしまうます。



清水さんに行く時は、いつもこのルートで行きます。  
右に折れて、八坂さんの南っかわの門から抜けて行くんです。



両側にはこういう町家が多くて、といっても殆ど料亭とか旅館とか、表通りに面しているのはそういうのですね。

旅行者が抱く京都のイメージにピッタリの通りです。



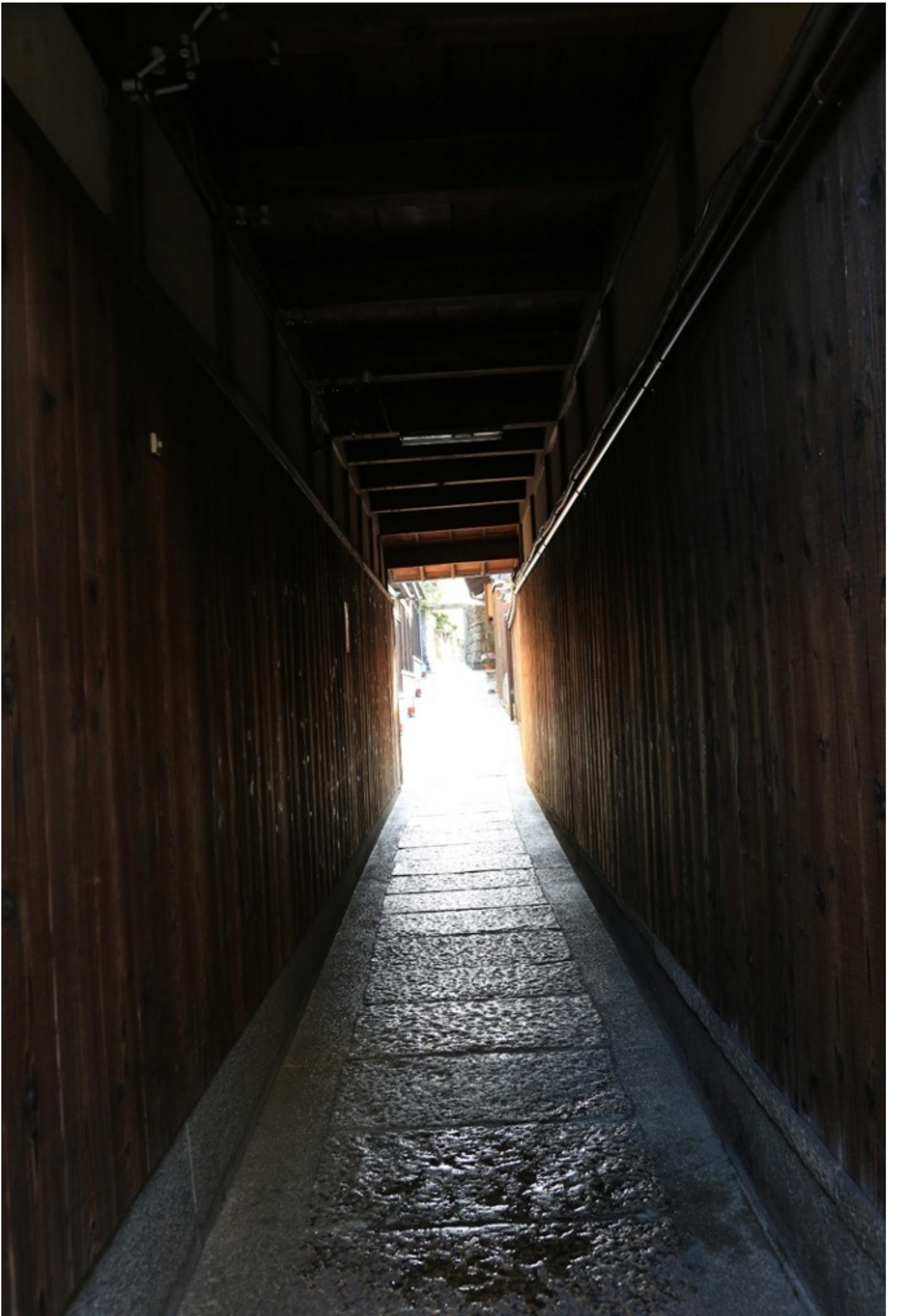
お寺なんですけど、中には鳥居が。  
神仏習合時代の名残かなあ。



奥の棚に楽茶碗が並んでいます。

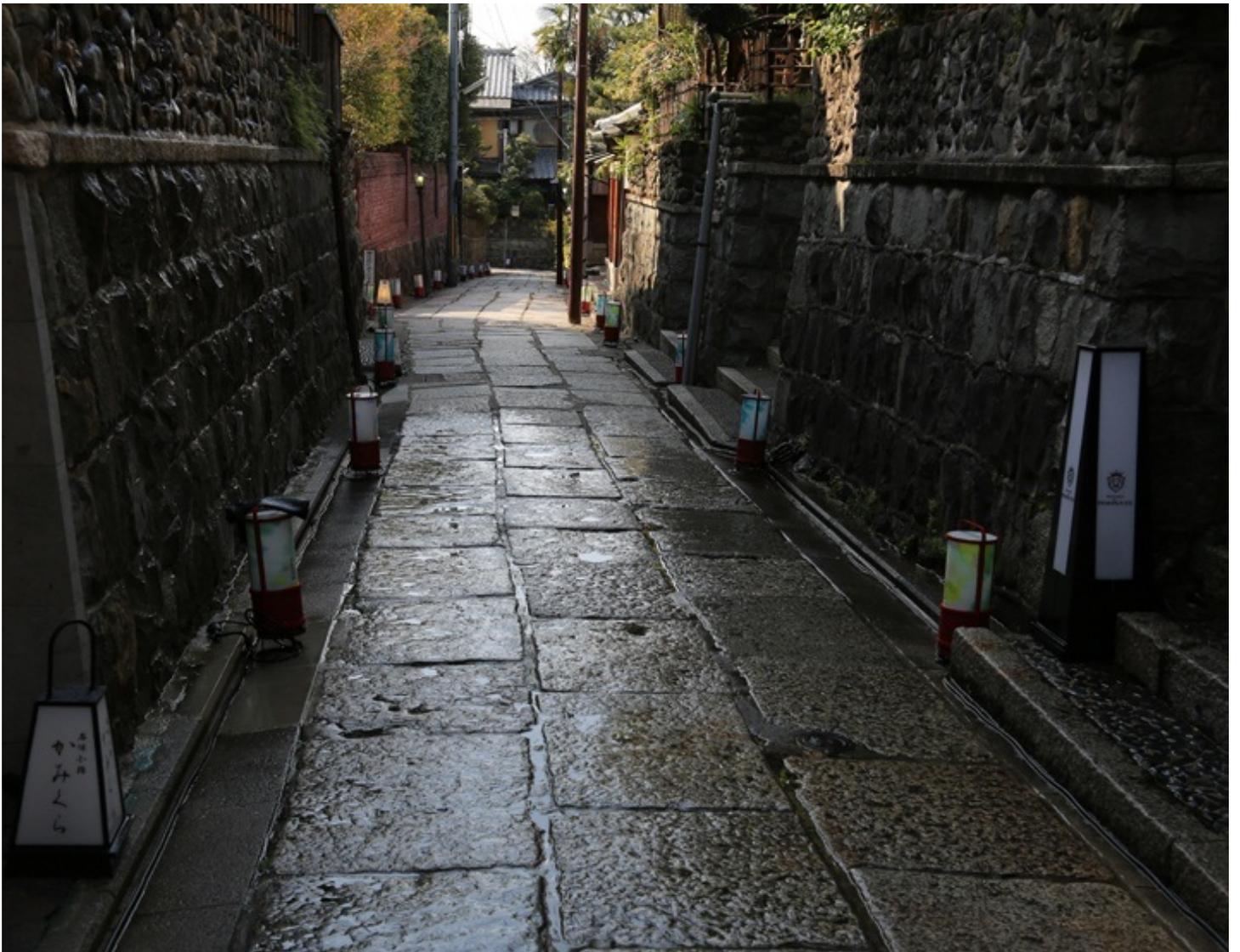
右上隅の黒茶碗が良さげなのですが、  
さりげなく置いてある茶碗が、0が二つぐらい多かったです。  
お店に入るのも命がけです。

入りませんが。  
特にカメラ持ってる時は、危険なので。



---

おや、、、こんな抜け道あったかなあ？



トンネル（違いますけど）を抜けるとそこは、、、  
石堀小路というらしいです。

うわぁ、知りませんでした。  
僕は京都の地の人間や無いので、当然知らんことは多いんですけど、  
学生時代を含めて何度もこのあたりは歩いてるんですけどねえ。

いつも同行人と、話しながらやからかな。



その石堀小路の一軒。

すけて見えているのではなくて、ガラスに向いのお宅が  
写っているの図、です。



渡りと小路が立体交差して、  
だんだん、わけわからんくなってきました。

うわあ、ワクワクする。



無駄にくねってますねえ。

下駄とか履いてたら、ええ音するんやろなあ。

下に点々と置いてあるのは灯笼です。  
東山花灯籠というイベントで、夜になると点灯させているらしくて、、、  
らしくてというのは、実際にやっているところを見てないんで、、、。

地元だといつでも見れるわ、と思っていつまでも見ないの  
典型的なパターンです。



さて、清水さんを目指しているんですが、途中で高台寺に  
行き当たりました。

なんと、一度も拝観したことが無いということに気がしまして、  
これはちょっと行ってみるべーかなと思い立ち。

先ほどの石堀小路あたりから来ると、この門に出会います。

この門。両脇ガラガラなので、門としての役割を果たしているのか  
はなはだ疑問が有るんですけど。

ま、雰囲気ですかね。



高台寺です。

「台」の字に似てますね。

もう面倒なので、お寺の名前も「台寺」とかでいいんじゃないでしょうか。

入りたければ左へゆけ、とのこと。



鉄の灯籠も台座の石も、水の力で時が刻まれていますね。

灯籠は錆びによる浸食で表面にかなりの凹凸が出来ています。  
鑄鉄製かなあ。変色の割にはしっかりとしているようにみえます。

外の錆が中の鉄を保護しているのでしょうか。

石の方は砂岩かも。なでてみたくなるような柔らかな  
曲面が生まれています。お釈迦様の掌のようです。

錆と浸食。

水の二つのインフルエンス。



はいつてすぐの所に待ち合いのような腰掛けがあります。  
土壁に埋もれるような木の柱が、海辺の防風林の松のようです。

手焙りの模様も、大胆な配置なのにざわざわしないのは  
三角形になっていて安定感を生み出しているからでしょう。



他の花に先駆けて、馬酔木が満開でした。

この花は、夜道を歩いている、花が見えなくても  
ああ、どこかで咲いているなあというのが分かるくらい  
良い香りがします。



幾つか有る茶室の一つ、傘亭



飛行機雲



うーん、キノコお化けが笑ってるように見える。

遺芳庵

お寺というよりは、出家後の隠居所のようなものかもしれません。



高台寺は、豊臣秀吉の正室、北政所が晩年を過ごしたお寺です。  
北政所は日本史上に登場する、強い影響力を持った人物のなかでは、  
悪く言われているのを目にしたことがない、珍しい人物ですね。

ある種独特の中立性を保っていたからかもしれません。



お庭なのですが、桜はまだ蕾固しというところで、  
開花すれば本当に見事だろうと思われます。



書院=====開山堂

||

方丈-----中門---

とこんな位置関係なんです  
がこの中門が何の為にあるのか

うーん、やっぱりあれかなあ。



書院から開山堂への渡り廊下  
途中に観月台



---

大丈夫か、この虫食いの柱！

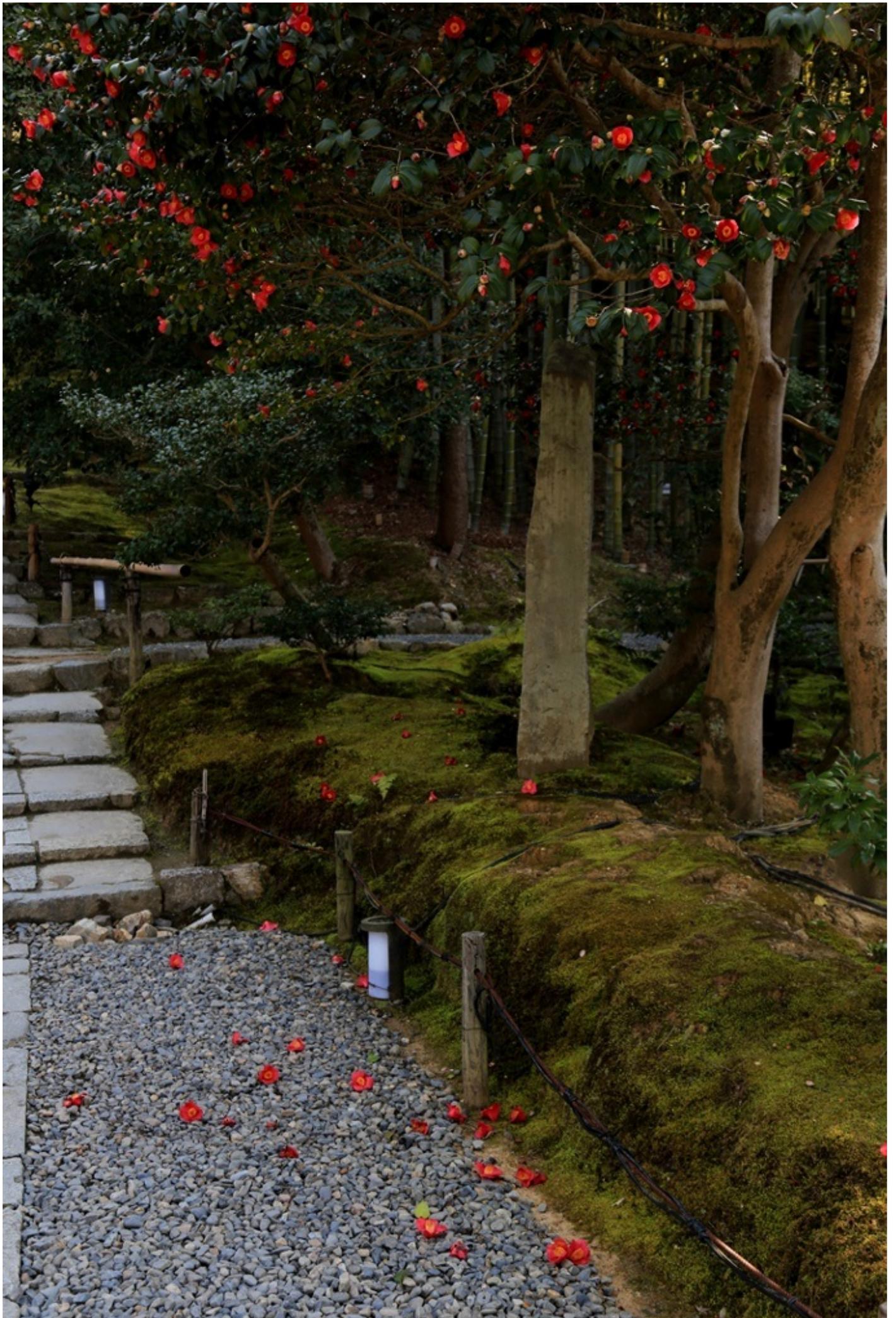


修学旅行生も来ていました。キミ達ラッキーだよ。

この高台寺なんですが、非常に見応えがあるお寺です。  
主要な建物にはガイドさんがついていて、説明をしていただけるし、  
質問にも答えていただけます。

ガイドさんには留学生らしき人もいましたし、庭師の一人が外国人女性でした。

じっくり回ってみて、日本の庭園の見せ方の技法のような物を改めて  
確認出来たり、中世の装飾の色が残っていたり、屋根の重ね合わせの美しさとか  
ふっと、立ち寄る気になったら思わぬ収穫が、という感じでした。



大好きな椿ちゃんが。



まだまだあるんですが、このままだと  
清水さんに行き着かないので、、、

いやあ、高台寺はいいです。



---

その高台寺から二年坂の手前を眺めたところです。

高台寺は高台に有るので、是非ちょっと登って、  
この景色を眺めてみてください。



横道からお嬢さん達が歩いて来られました。  
着物を貸して着付けまでやってくれるお店が  
何軒もあります。

この日も本当に沢山の人が、着物姿で歩いてはりました。  
みなさん可愛いです。

ただし、舞妓体験と言うのもあるのですが、  
あれは京都では評判が悪いです。

舞妓というのは、伝統も格式もあり長いお稽古の後に  
なれる物だし、あの着物も化粧も、夜の暗い室内に映えるように  
誂えた物なので、日向でぞろぞろ歩く物ではありません。





八坂の塔は、この界限であれば  
あちこちから見えます。

瓦が新しいですね。この通りで大改装したんだろうな。



「どすえ」とか聞いた事無いです。  
美意識で作られた景観を、こういうもので台無しにするのを  
日本人てなんとも思わないですよ。

美しい家の前に、水を入れたペットボトルどんどん、とか。



ここは二年坂。  
ここで転ぶと2年後に死ぬ、とかいう都市伝説がありました。

あ、電柱無くなったな。



坂だけでなく屋根も階段状になっています。  
こういう重ね合わせって、トントントントンという  
リズム感があっていい。

そして新芽が出た柳。  
広重あたりが好んで描きそうな風景。



庭園のある民家をカフェと土産物屋に改装していました。  
池のある庭園で結構広いです。

その水面に反射する光が、ゆらゆらと障子に揺れていました。



来ました産寧坂

ここどころぶと3年後に、、、あれ？二年坂の方だったかなあ。

この坂、ちょこっときつい上に、両側にお店があったりとか  
なんていうんでしょう、、、ロールプレイングゲームの  
ダンジョンをモンスター倒しながら上がって行くような  
微妙にHPを削って行くような坂、なんですよ。

つたわってないだろうなあ……………。



空が狭い。



産寧坂を登りきると清水通りに出ます。  
まだまだ上りが続きます。

モンサンミッシェルに行ったとき、此処のことを思い出しましたが、甘かった。  
お店のパワーが全然違います。

京都で有名な店は、殆どここに出店していました。  
デパ地下をそのまま持って来たような具合ですね。



うわぁ！まだこれやってるんだ。  
あぁ、いまフラッシュバックが。  
場所も同じ。。。恥ずい。



おお、山門が見えてきました。  
雨の日とか凄そうだなあ。  
傘で埋まりそう。



実はいま、幾つかの塔が改修中で見られません。  
そしてただいま、11:25。  
まだまだ空いてます。午後はこんなもんじゃないです。



梅がほぼ満開。



自制心を発動する前に、シャッターを切ってしまっていました。。。  
着物姿のお二人連れなんですが、これが意外と外国人だったり  
するんですよえ。

一種のコスプレと言えなくも無い。。。無いわなそれは。



誰かこの家族に、縁結びの神さまの意味を教えてください。



うーん、この店で4回ぐらいおぜんざい食べたなあ。



この外国人集団は、何故か”手をすすぐ”という行為に興味津々で遠巻きに取り囲んで銘々写真を撮影していました。

さて、次回に続きます。

Photo 「空と雪と、京都の路地は奥に深いです mu」 <http://p.booklog.jp/book/83952>  
「黄金の麦畑」

1.Largo

<http://p.booklog.jp/book/58662>

2.Allegro molto

<http://p.booklog.jp/book/83865>

「黄昏の王国」

イーリアス編

<http://p.booklog.jp/book/49612>

アリシア編

<http://p.booklog.jp/book/51254>

「Travelogue ep.01」

<http://p.booklog.jp/book/83694>

Photo 「Hina」

<http://p.booklog.jp/book/83499>

Photo 「空と雪と、京都の路地は奥に深いです itu」

<http://p.booklog.jp/book/82880>

Photo 「空と窓と、京都の路地は奥に深いです yo」

<http://p.booklog.jp/book/82643>

Photo 「空と窓と、京都の路地は奥に深いです mi」

<http://p.booklog.jp/book/82160>

Photo 「からくれないに ni」

<http://p.booklog.jp/book/81713>

Photo 「bleu, jaune, vermillon」

<http://p.booklog.jp/book/81111>

Photo 「H.45」

<http://p.booklog.jp/book/80229>

Photo 「Fly me to Paris I～XIV」

Photo 「祇王 こけのころも」

<http://p.booklog.jp/book/74864>

Photo 「空と雨と6月と」

<http://p.booklog.jp/book/74060>

小説

「ネガティブズ2」

「ネガティブズ」

<http://p.booklog.jp/book/73051>

Photo 「空と僕と自転車とni」

<http://p.booklog.jp/book/72996>

Photo 「空と僕と自転車と」

<http://p.booklog.jp/book/72092>

Photo 「空と椿と木蓮と、そして花水木」

<http://p.booklog.jp/book/71344>

Photo 「空と雲と、ぜんぶ鳥のいたずら」

<http://p.booklog.jp/book/70700>

Photo 「空と雲と、ときどき春の野を行く」

<http://p.booklog.jp/book/70137>

Photo 「空と月と、夜桜デート」

<http://p.booklog.jp/book/69415>

Photo 「空と木と、ときどきの梅暦」

<http://p.booklog.jp/book/68722>

Photo 「空と窓と、京都の路地は奥に深いです ni」

<http://p.booklog.jp/book/65536>

Photo 「空と窓と、京都の路地は奥に深いです」

<http://p.booklog.jp/book/64153>

Photo 「空と木とたまに月」

<http://p.booklog.jp/book/62540>

Photo 「からくれないに」

<http://p.booklog.jp/book/61473>

Photo 「空と雲と、ときどき月」

<http://p.booklog.jp/book/36294>

Photo 「夢みる桜」

<http://p.booklog.jp/book/45286>

— 僕カノシリーズ —

「僕が彼女に殺された理由（わけ）」

<http://p.booklog.jp/book/31906>

「僕と彼女の選択の事由（わけ）」

<http://p.booklog.jp/book/35498>

「僕と彼女はそれしか答えを見つけれなかった」

<http://p.booklog.jp/book/36101>

「僕と彼女はそれでも答えを探し続ける」

<http://p.booklog.jp/book/36617>

「僕と彼女と複雑な関係者たち」

<http://p.booklog.jp/book/37238>

「僕と彼女と単純な関係式」

<http://p.booklog.jp/book/37731>

「僕と彼女と校庭で」

<http://p.booklog.jp/book/38409>

「僕と彼女と校庭で 夏」

<http://p.booklog.jp/book/38977>

「僕と彼女のアリア」

<http://p.booklog.jp/book/46524>

「僕と彼女のインベンション」（次回）

— その他 —

傘がない

<http://p.booklog.jp/book/69798>

夕暮れの赤ちょうちん

<http://p.booklog.jp/book/42024>

いもうと

<http://p.booklog.jp/book/40794>

サマータイム・ブルーズ

<http://p.booklog.jp/book/34054>

危険なドライブングマジック

<http://p.booklog.jp/book/33630>

デフラグメント

<http://p.booklog.jp/book/33116>

インフルエンス あのころの僕たち

<http://p.booklog.jp/book/32752>

花舞い、名残り雪

<http://p.booklog.jp/book/32187>

詞画集 「ただ憧憬だけを」

<http://p.booklog.jp/book/34472>

画集 「彼と彼女の表紙画集」

<http://p.booklog.jp/book/39345>